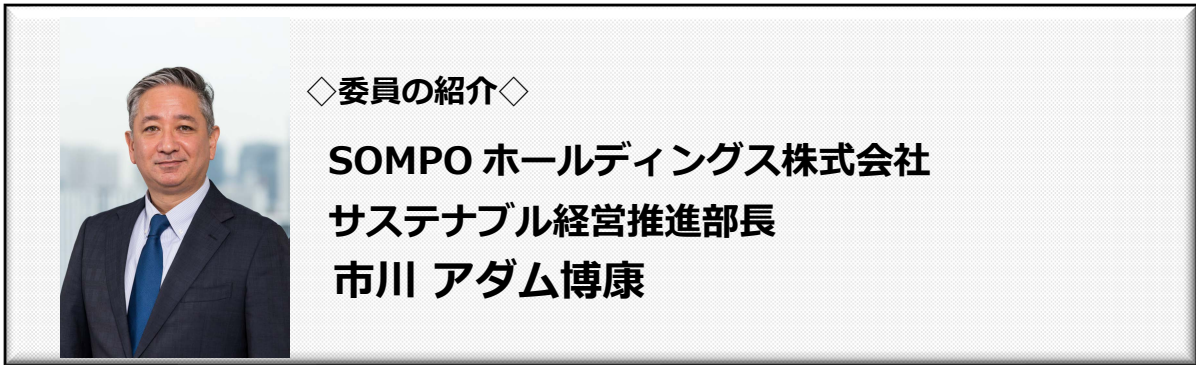




この度、2026年4月にサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の委員を拝命いたしました、SOMPO ホールディングスの市川アダム博康です。国際的にサステナビリティ開示の重要性が高まるこの歴史的な転換期に、その一翼を担う大役を賜り、身の引き締まる思いでございます。

私が所属します SOMPO ホールディングスは、国内損害保険、海外保険、国内生命保険、そして介護事業を4つの柱として、パーパスである「“安心・安全・健康”であふれる未来へ」の実現を目指しております。事業の特性上、気候変動をはじめとする地球規模の課題を、将来世代にわたる長期的なリスクとして捉えるとともに、超高齢社会が直面する介護といった課題の解決を通じて、レジリエントで持続可能な社会を構築することを目指しております。こうした背景から、私たちはルールメイキングの歴史を重んじ、様々なステークホルダーとの対話を通じて社会課題の解決に貢献することを、経営の根幹に据えてまいりました。

気候変動、生物多様性、循環経済、人権といった現代社会が直面する課題は、ますます複雑化し、相互に深く関連しています。これらの課題解決には、企業が自社の事業活動が社会や環境に与える影響を的確に評価し、投資家、顧客、従業員、そして地域社会といった多様なステークホルダーとの対話を通じて、解決策を「共創」していく姿勢が不可欠です。

そして何より、サステナビリティへの取り組みは、もはや「非財務」情報ではなく、将来の財務パフォーマンスを左右する企業価値そのものであると確信しております。サステナビリティを事業戦略や経営に深く組み込み、企業価値創造へと繋げていくことこそ、これからの企業経営の要諦です。そのためには、国際的に比較可能で質の高いサステナビリティ開示基準という「共通言語」が不可欠であり、SSBJ が果たすべき役割は極めて大きいものと考えます。

SSBJ の委員として、これまでの実務経験を活かし、日本の企業が持つ優れた取り組みや、災害大国として培ってきたレジリエンスの知見などを、国際的な基準開発の議論に積極的に反映させていきたいと考えております。日本の産業界が持つ強みをグローバルな舞台上で発信し、国内外の市場から正当な評価を得ることは、日本全体の活力向上、ひいては日系企業の持続的な社会価値および経済価値の向上に大きく寄与するはずです。

委員長及び委員の紹介

委員の皆様、そして関係者の皆様との建設的な対話を通じて、公正で信頼性の高いサステナビリティ開示基準の開発に誠心誠意貢献してまいる所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。